

適切な備えで

台風・大雨の災害から **命を守る!**



▲平成10年8月に発生した「那須水害」で余笹川が氾濫する様子（余笹川ふれあい公園）

台風・大雨

日本は、季節の変わり目に梅雨前線や秋雨前線が停滞し、しばしば大雨を降らせます。また、7月～10月にかけては、日本に接近または上陸する台風が多くなり、大雨や洪水、暴風などをもたらします。

台風や前線によって、がけ崩れや土石流や地すべり、そして川の氾濫などが起こりやすくなり、毎年のように危険な災害が発生しています。平成10年8月に本町で発生した「那須水害」は、まさに前線の停滞と台風の影響で発生したものです。



那須水害とは

平成10年8月26日から31日にかけて、前線が日本付近に停滞し、台風4号が日本の南海上をゆっくりと北上したことで、北日本や東日本を中心に雨が断続的に降り続き、町は記録的な大雨となりました。

5日間連続して130mm以上の日降水量を観測し、総雨量は1,254mmに達しました。特に27日には、1日の降水量が607mm（8月の1カ月の平均雨量の約2倍）に達し、余笹川の氾濫により堤防が決壊したことで住家10棟が流出、多数が浸水するなど、大きな被害が発生しました。



災害に備える

「まさか、自分の身には起きないだろう」と考えている方も多いのではないのでしょうか。しかし、誰もが災害に合う可能性があり、それは突然やってきます。「自分には関係ないだろう」という考えから、避難が遅れるなど災害に適切に対応できないことにもつながるのです。

災害はいつ発生するかわかりません。災害の被害を最小限に防ぐために、日頃から備えましょう。

